

## 外来生物法とは

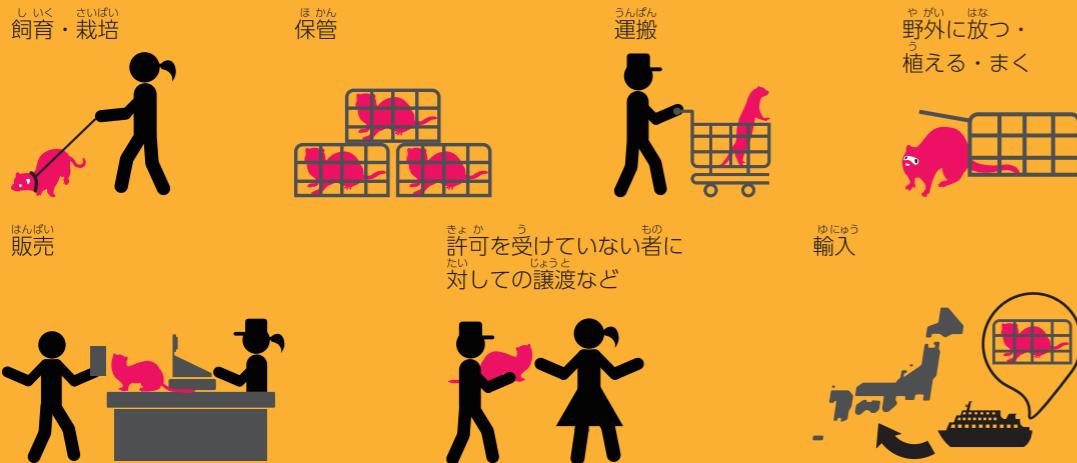
正式には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」といいます。外来種による生態系、農林水産業、人の生命・身体への被害を防止するために制定されました。特定外来生物として指定された種は、飼育・栽培・保管・運搬・販売・輸入などが原則として禁止されています。また、原因となった行為をした者に対しては、防除に必要な費用の一部または全部を負担していただく場合もあります。

## 外来種被害予防三原則

- 1 入れない
- 2 捨てない
- 3 拡げない

悪い影響を及ぼすかもしれない外来種を  
むやみに自然分布域から非分布域へ入れない  
ペットとして飼ったり栽培している外来種を自然の  
中に逃がさない、放さない  
自然のなかにいる外来種をほかの地域に  
生きたまま持ち出さない、増やさない

## 外来生物法で規制される事項



※これらの項目に違反した場合、最高で個人の場合3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金、法人の場合1億円以下の罰金が科せられます。

外来生物法について詳しく知りたい方は  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

外来種被害防止行動計画  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/actionplan.html>



## 緊急対策外来種

# アメリカハマグルマ



奄美・沖縄版



環境省 那覇自然環境事務所 Tel. 098-836-6400 Fax. 098-836-6401  
〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1丁目15番15号 那覇第一地方合同庁舎1階



この印刷物は、印刷用紙へ  
リサイクルできます。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

気をつけよう !! 外来種  
守ろう !! 生物多様性

アメリカハマグルマは、キク科の多年性植物で、年間を通じて草体が繁殖します。1970年代に緑化用として沖縄諸島各地に導入されました。しかし、あまりにも繁殖力が強く在来植物の生育に大きな影響を与えているため、緊急対策外来種(※)に選定されています。

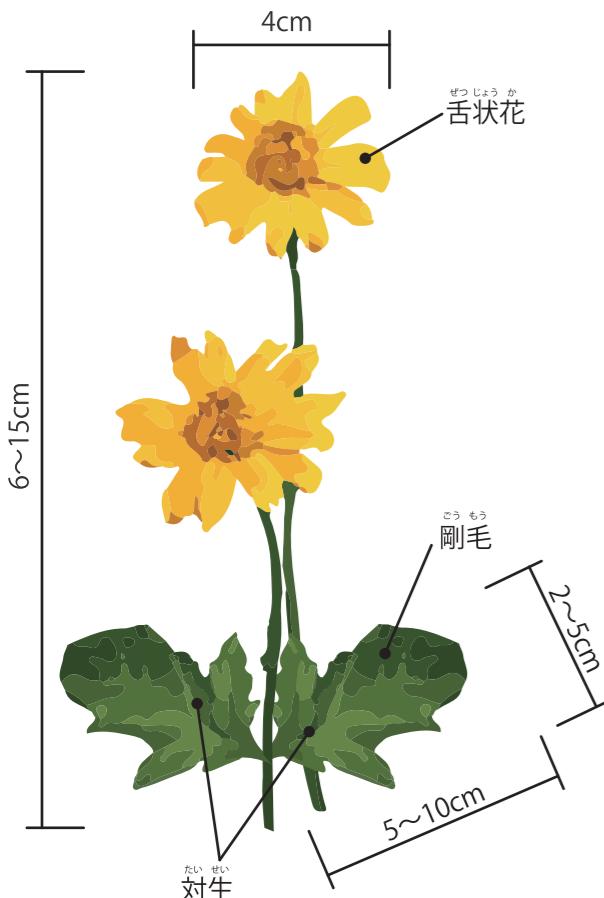
## ※ 緊急対策外来種

生態系被害の甚大性や生物多様性の保全上重要な地域への影響から、特に緊急性が高く、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある種。

## アメリカハマグルマはこんな植物



和名：アメリカハマグルマ、ミツバハマグルマ  
学名：*Sphagneticola trilobata* (*Wedelia trilobata*)  
自然分布：南アメリカ北部



## 全体

キク科の多年性草本の植物で、年間を通じて草体繁殖します。頭状花序は在来種のハマグルマ(ネコノシタ)に似て、鮮橙色で6~15cmの花茎に単生。径4cmほど、舌状花は長さ1.3cm、幅5mmほど。

## 葉

葉の長さは5~10cm、幅2~5cm、1か所から2枚の葉が出る対生です。葉の形は被針形で表面には剛毛があり、ザラザラとしています。

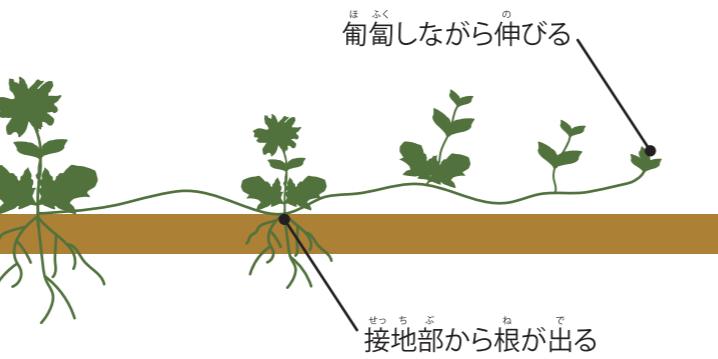
## 根

株元からつる状に匍匐して接地部から根を出して伸び、長さ3~5cmになります。

## 繁殖力

匍匐して伸びることから、他の植物の上にも繁殖します。網目のように次から次へと違う節から分岐することによって、その下に生育する植物に光が当たらなくなり、元々あった植物は枯れてしまいます。

## 除去



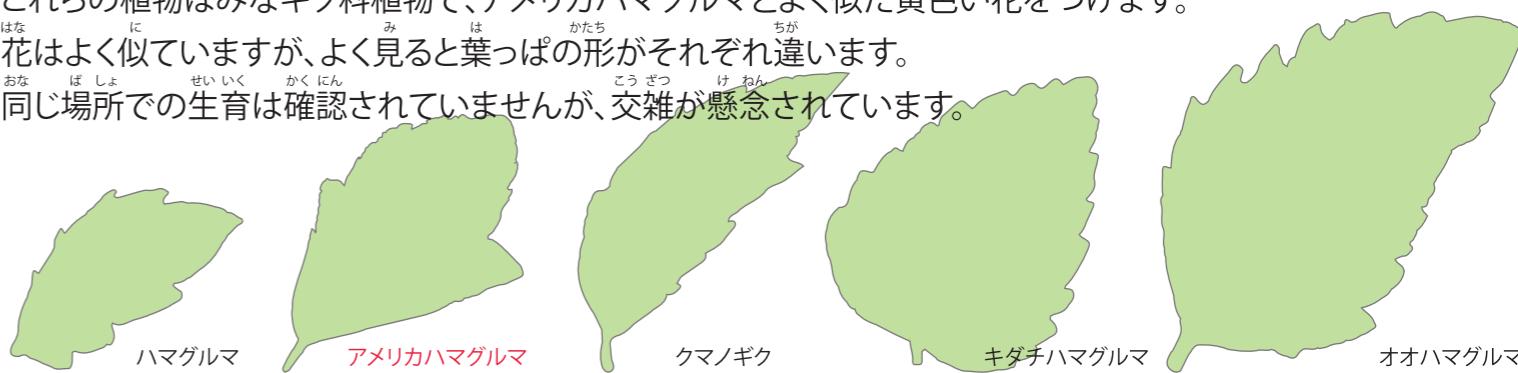
## アメリカハマグルマが生育している場所

右の写真は、西表島に咲くアメリカハマグルマです。どこからか、この地に入ってしまい一面に拡がっています。他の植物は駆逐され、全く見られません。



## よく似た在来植物

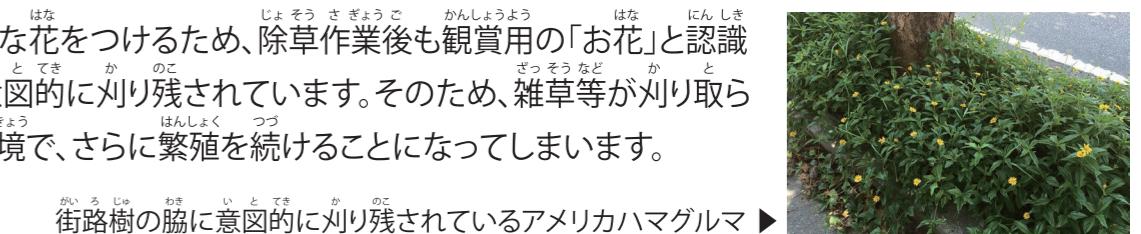
アメリカハマグルマに似た在来種としてキダチハマグルマ・クマノギク・オオハマグルマがあります。これらの植物はみなキク科植物で、アメリカハマグルマとよく似た黄色い花をつけます。花はよく似ていますが、よく見ると葉っぱの形がそれぞれ違います。同じ場所での生育は確認されていませんが、交雑が懸念されています。



## どうすればいいの？

## 課題

黄色のきれいな花をつけるため、除草作業後も観賞用の「お花」と認識されやすく、意図的に刈り残されています。そのため、雑草等が刈り取られた整った環境で、さらに繁殖を続けることになってしまいます。



## 拔き取り

防除に当たっては、根茎を残すと容易に再生してしまうため、可能な限り丁寧な抜き取り作業を行ってください。刈り取りの場合は、根茎が残ってしまい、容易に再生するため、完全に駆除するためには抜き取りと組み合わせる必要があります。再生が見られなくなるまで抜き取り作業を継続的に続ける必要があります。

抜き取ってすぐの根には再生能力があるので、そのまま移動させてはいけません。飛散防止のため、ビニール袋に入れる等して運搬し、ゴミ焼却するか、抜き取ったその場で数日間天日にさらして乾燥させるなど、枯死させたうえで運んでください。また、除草剤の使用に当たっては、他の植物へ影響を及ぼさないよう、場所や方法を考えて行う必要があります。